

岡田まさあき 市政報告

無所属・市民派

市民の目線で行動します！



不登校の支援について (答弁/山本教育長)

質問

①基本方針と現況は？

大垣市の令和2年度の不登校の児童・生徒数は、小学校は123人、中学校は207人の合計330人です。

令和2年度はコロナ感染症による登校不安や学級閉鎖による生活リズムの乱れが原因で増えています。

不登校の児童、生徒のために支援ハンドブックを作成するなど、早期発見・早期対応・未然防止や自立支援に努めています。



えっ！
中学校は20人に1人が
不登校なの!!

*令和4年9月大垣市教育研究所の資料より作成

②スクールカウンセラーの利用増進は？

スクールカウンセラー（臨床心理士）の配置時間の拡充を県教育委員会に要望していきます。

③ほほえみ相談員の増員は？

大垣市独自の取り組みとして、全中学校に10人（各中学校に一人ずつ）、全小学校に13人の合計23人を配置しています。適切に配置しているため、増員の必要性はありません。

(決算委員会の答弁より)

④教職員の研修の充実は？

ほほえみ相談員の支援のあり方についての理解を深め、対応力の向上をはかる研修を継続的に行っています。

⑤不登校オンラインの全小中学校化は？

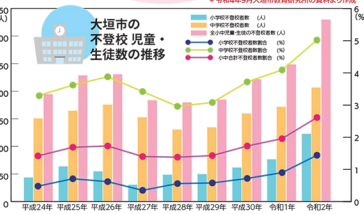
各学校においてはタブレット端末を活用しオンライン学習を進めています。

⑥特例校の設置は？

施設や教員の確保が困難であり、財政面での負担が大きいため考えていません。

⑦後追い調査と分析と施策への反映は？

引き続き取り組みます。



*注 令和3年度の不登校者数は10月に公表されます。令和2年度を上回る予定です。

大垣市	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
小学校不登校者数 (人)	44	64	55	31	49	50	62	77	123	
全小中児童数 (人)	9,204	9,033	8,929	8,798	8,687	8,657	8,587	8,556	8,527	8,346
小学校割合 (%)	0.48	0.71	0.62	0.35	0.56	0.58	0.72	0.90	1.44	
中学校不登校者数 (人)	191	165	176	153	131	135	160	172	207	
全小中児童数 (人)	4,593	4,563	4,534	4,480	4,432	4,383	4,303	4,205	4,122	4,118
中学校割合 (%)	3.29	3.62	3.88	3.42	2.96	3.08	3.72	4.09	5.02	
小中不登校者数合計	195	229	231	184	180	185	222	249	330	
全小中児童・生徒数 (人)	13,797	13,596	13,463	13,268	13,119	13,040	12,890	12,761	12,649	12,464
小中割合 (%)	1.41	1.68	1.72	1.39	1.37	1.42	1.72	1.95	2.61	

⑧切れ目のない支援（高校等への引き継ぎ）は？

引き続き取り組みます。

⑨特例校・フリースクール参加者への補助は？

考えていません。

⑩親の会への事務局担当教員の配置は？

考えていません。

※特例校とは、不登校児童・生徒等の実態に配慮し、教育課程の基準によらず、特別の教育課程を編成できる学校
(例：岐阜市の草湊中学校・揖斐川町の西濃学園 など)

My Opinion

『不登校の支援』のあり方？！

不登校とは何でしょうか？

全国では、「不登校の子」約20万人。「不登校傾向の子」を含めると40万人～50万人と言われています。大垣市でも年々増加しています。「学校」は、子どものために社会の用意した制度です。その「学校」から距離をとる子が増え続けています。「学校」はもともと「子どもの学ぶ権利」を保障するために創られました。また、「普通教育機会確保法」もできました。「学ぶ権利の保障」は、多様な教育が選べることで、多様な学びや多様な育ちが選べる社会になることが必要です。

大垣市の不登校の支援は「治す(直す)」より「受けとめる」ことから始めましょう。そのためには、いろいろなメニューのラインナップと実践が必要です。人生の学童期・思春期・青年期に悩む子どもたちが、自立し、一生に一度しかない人生を幸せに生きてもらいたいものです。子育て日本一にふさわしい『大垣市の不登校支援』を創りましょう。

岡田まさあき 著「明るい学校」より引用

